

こころ育てる絵本との出会い

まがちゃん通信

2016 10 - 11 vol. 40

絵本作家インタビュー

みやこし あきこ

特集 絵本のまちから



みやこしあきこ

絵の隅々までこだわって
読者をずっと本の中に引き込むような
空気感を作りたい。



みやこし あきこ プロフィール

1982年、埼玉県狭山市生まれ。大学時代から絵本を描き始める。
2005 武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業
2009 第25回日産童話と絵本のグランプリ 大賞受賞 及び『たいふうがくる』(BL出版) 出版
2010 『もりのおくのおちゃかいへ』(偕成社) 出版 及び第17回日本絵本賞大賞受賞
2011 『のはらのおへや』(ポプラ社) 出版
2012 『ピアノはつぽうかい』(プロンズ新社) 出版
2013 『これ だれの?』(プロンズ新社) 出版
2014 『かいちゅうでんとう』(福音館書店) 出版
2015 『よるのかえりみち』(偕成社) 出版 及びボローニャラガッツィ賞佳作受賞

絵本原画展開催

平成28年9月24日(土)～11月29日(火)

原画展示絵本



『ピアノはつぽうかい』
(プロンズ新社)

今日はももちゃん、初めてのピアノ発表会。ドキドキしながら出番を待っていると、ねずみたちの発表会に誘われました。サーカスや手品、オーケストラの演奏、バレエを楽しんでいるうちに、ももちゃんもステージにあがること……



『これだれの?』(プロンズ新社)
フライパン、ほうちょう、上着にぼうし、ひみつけのレシビノット……ページいっぱいに道具や洋服が描かれています。「これだれの?」とページをめくると、コックさんのお料理の仕上げの真っ最中! 絵さがしが楽しめる絵本です。

秋のギャラリーでは、初めての発表会での緊張感を描いた『ピアノはつぽうかい』とあてつこが楽しい『これだれの?』の2冊をご紹介します。

みやこしあきこ先生に
インタビュー



絵本作家になられたきっかけは?

予備校時代に『よあけ』(作・絵/ユリ・シユルヴィツ、訳/瀬田貞二、福音館書店)を偶然本屋さんで見かけて衝撃を受けました。絵本ならではの文と言葉の掛け合いに感激して、いつかこんな絵本を作ってみたいと思いました。

それから今の子ども達が読んでいる絵本が自分が子どもだった頃とほとんど変わらないのに気付く、時代に左右されない普遍的でシンプルな絵本の良さにとても共感しました。

画材は何を使っていらっしゃいますか?

木炭・木炭紙・鉛筆・アクリルガッシュなどです。

今回、絵本原画展を行う絵本の制作秘話や思い出を教えてください。

『ピアノはつぽうかい』

私自身もピアノを習っていて、このお話は私の実体験をもとに描いています。小さい頃から人前が出るのが苦手で、発表会もとても憂鬱でした。光のあたっているステージと真っ暗で機材などがごちゃごちゃしている舞台袖は別世界に思えて、ずっとこっちにいたいと思っていました。いつも出来るだけ資料を集めて描くのですが、この本を描く時はハツカネズミを飼ってモデルになつてもらいました。

『これだれの?』

初めて色をたくさん使い、小さい子向けの本に挑戦しました。始まりは私がタブローで描いていた、いろんなアイテムが並んだ絵を編集者が気に入ってくださり、あてつこゲームが出来るといふ構成を思いつきました。字やストーリーが分からない子でも親と一緒に絵を見て楽しめます。

ちなみに双子の持っている絵本は、私の大好きな『こねこのミトン』(作・絵/クレア・ターレー・ニューベリー、訳/劉優貴子、講談社)『黒猫ジェニーの誕生日』(作/エスター・アベリル、訳/羽島葉子、バルコ出版)と『ピアノはつぽうかい』(笑)です。最後のロックスターは私がフアンズのジミー・ページです。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象深い絵本は?

どれも同じくらい印象深いですが、『もりのおくのおちゃかいへ』は初めて出版に向けて本格的に作った絵本で、出版までに4年以上かかり、なにもかも初めての経験だったので、そういう意味では印象深い本です。

絵本をお作りになるときのこだわりは?

絵の隅々までこだわって、読者をずっと本の中に引きこむような空気感を作りたいと思っています。読者が自分と重ねられるような場面や状況を入れたり、どこかで見たことがあるような忘れられない美しい場面を描きたい、いつも思っています。

絵本を通じてお伝えになりたいことは?

私は好きなこと、描きたいことを描いているだけで、皆さんがどこか共感できる、寄り添うところが見つけられたら嬉しいです。

今後どのような絵本を描いていきますか?

今考えているのは字のない絵本や、旅の絵本、お人形が冒険するお話などです。それから少し先ですが、宮沢賢治の『ポラーノの広場』の絵も描く予定です。

ご趣味についてお聞かせください。

可能な限り旅行をしています。小さい頃から家族旅行もたくさん連れて行っていました。大学時代からヨーロッパを中心に旅し、ベルリンに一年住んだりしました。最近のお気に入りにはインドと小笠原諸島で、イランにも行ってみたいです。

好きな言葉を教えてください。

映画『ある愛の詩』の中に出てくる「愛とは後悔しないこと」という言葉が好きです。それから「明日に延ばせることは明日やる」。

フアンズの皆さんへメッセージをお願いします。

会ったこともない皆さんが私の本を読んでもくださっているなんて何だか信じられないです。大好きな絵本を描き続けられて、私は幸せものでございます。どうもありがとうございます!

みやこしあきこ先生、ありがとうございました!

みやこしあきこ先生 サイン入りの絵本を 3名様にプレゼント

応募方法 氏名、年令、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
みやこしあきこサイン本プレゼント係
締め切り 平成28年12月10日 消印有効
※発表は発送をもって代えさせていただきます。



『これだれの?』
(プロンズ新社)

おおしま 国際手作り絵本 コンクール2016

たくさんのご応募
ありがとうございました



結果
発表



『はいはい』
〔一般〕
さとう なつき
(山形県)



『ボクは むしのおいしゃさん』
〔一般〕
山台 直子
(大阪府)



『おばけアパート』
〔しかけ〕
新田 一良
(埼玉県)



『ぼくのたけのこくん』
〔一般〕
澤田 恭子
(奈良県)



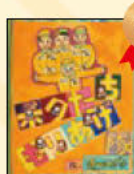
『朝起きたら
お母さんがいなかった』
〔一般〕
小林 由紀子
(千葉県)



『茨木童子 羅城門の巻』
〔しかけ〕
長澤 千恵美
(大阪府)



『かめさん元気でね』
〔一般〕
高林 ひろみ
(愛知県)



『ボクたち もりあげ隊』
〔しかけ〕
蒲田 あずさ
(大阪府)

ほか奨励賞10名、入選32名のみなさんおめでとうございます。(応募総数316点)

創作教室レポート

第3回「さわこさんと カップドールをつくろう」7/16

音楽にのせて色画用紙をチョキチョキ…。魔法のような鮮やかで帽子やめがねをつくり出すと会場からは大きな歓声と拍手!あっという間に参加者をとりこにしたのは、つくる楽しさを伝えたいと全国でワークショップを展開中の工作作家・丸林佐和子さん。今回の創作教室では、紙コップと粘土などでつくる可愛いカップドールを教えてくださいました。さわこさんは200名を超える参加者の間をまわりながら道具の使い方や工作のコツなど一人一人に細やかにアドバイス。工作の魅力をたっぷりと伝えてくださいました。

被災地にも足を運んでいらっしゃるさわこさんは、未だ避難生活を強いられる熊本の現状もお話くださいました。最後は応援の気持ちを込めて全員でくまモンの折り紙帽子をつくり記念撮影。さわこさんの呼びかけで集まった募金とともに私たちのエールを熊本に届けてくださるそうです。少しでも被災地の皆さんの力になれることを願っています。



粘土をこねたら色が変ったのが楽しかったです。(いつくくん・7歳)

自分だけのものができることがこんなに楽しいとは…。またぜひ富山に来てください!(朝土さん・お母さん)

イベントレポート

若林美智子 胡弓コンサート 6/26



「越中おわら節」を町流し風に奏でながら舞台上に登場したのは胡弓の名手・若林美智子さん。哀愁を帯びた音色に会場には「風の盆」さながらの情緒があふれました。「一度若林さんの演奏を聴いてみたかった」という方も多く、普段は小さいお子さんが多い会場も大人で埋め尽くされました。



またこの日はバンドネオンやピアノ演奏で大國徹さんも共演。「宵待草」「月の沙漠」など大正ロマンを感じさせる楽曲は和と洋の音色との相性も抜群です。モダンで粋な演出に会場の皆さんは胡弓の魅力にいつそう心奪われたようでした。

出版
されました!

『海への町へ』

作・ときさき きよし

おおしま国際絵本コンクール2015
最優秀賞受賞作品

当館ショップにて販売中。[税込1,080円]



12・1月イベント

シアター・パフォーマンスホール
絵本館のクリスマスコンサート

とき/12月4日(日)14時・15時30分
料金/大人1,500円・3歳以上600円
出演/竹内祥子(ピアノ)
劇団ボチボチ(人形劇)

おかしプレゼント

とき/12月23日(金祝)・25日(日)
絵本館ジャンボかるた大会
とき/平成29年1月8日(日)
①10時・11時 ②14時・15時

カフェギャラリー

シタケアートセッション
shinotake art session

とき/12月1日(木)・12月13日(火)
iroito

とき/12月14日(水)・12月27日(火)
年賀状展

ギャラリー

柿本幸造 絵本原画展

とき/12月20日(金)・
平成29年1月20日(日)

展示原画

「つべつをかに」(講談社)
「かえってきたはぐち」(ひかりのくに)他

特集 / 系会本のまちから



夏野元志
射水市長

平成6年8月に開館しました射水市大島絵本館も22歳になりました。お気に入りの絵本を親子で一緒に探し、母親の膝の上に子どもが座り絵本を読んでもらっている。そこには、笑顔にあふれ、誰も立ち入ることができない絆で満たされた時間が流れている。そのような光景が当たり前のものとなっています。

開館当初から、大島絵本館の基本コンセプトである「感じる」「つくる」「伝える」のテーマのもと、絵本を通じて心のふれあいの場として、市民や県内外の幅広い年代の皆様から愛されている館となっており、心からうれしく思います。

大島絵本館では、絵本文化を中心とした様々な事業を展開しており、その中でも毎年開催されております「おおしま手づくり絵本コンクール」は、園児から絵本作家を目指す若い方々や手づくり絵本愛好家の方々まで幅広くご応募いただいております。私自身も今年はそのような素晴らしい作品に出会えるだろうかと非常に楽しみにしていると同時に、そのレベルの高さに感心をさせられます。引き続き、国内外の皆様からの多数の応募を期待しております。

また、詩人谷川俊太郎さんの記念対談「絵本・ことば・声」や、国内主要絵本館代表者が一堂に会してのシンポジウム、無料の手づくり絵本のワークショップなどが企画されております。これを機に当市大島絵本館に多くの皆様が訪れていただき、子どもから大人まで気軽に楽しむことができる絵本の魅力に触れていただきたいと思っております。

なお、9月11日には、「全国絵本ミュージアム会議」来て、見て、感じて!絵本の未来」が大島絵本館にて開催されます。全国会議の開催にご尽力を賜りました実行委員会の皆様には、心から敬意と感謝を申し上げます。この全国会議は、絵本文化の普及活動に携わる全国の絵本関連施設の皆様と、絵本文化の将来について連携し合う大変貴重な機会と考えております。

私のおすすめ絵本

『わんぱくだんのだるまのぼろぼろ』他シリーズ
ゆきゆき 上野与志/作
末崎茂樹/絵
ひさかたチャイルド



いつもの遊び場からいつの間にか不思議な世界にトリップ!たとえ困難に直面しても想像の翼を広げ、力を合わせて解決していく仲良し3人組の冒険ファンタジーに大人も子どもも夢中に。

『きみといっしょに』

石垣十/作
くま あやこ/絵
タリズコービー



目を閉じれば思い浮かぶかけがえのない記憶の数々。くまの親子の姿を通して、子どもたちの成長を見守り、誰よりも子どもたちのしあわせを願うお父さんの愛情を綴った絵本。

『まほうつかいのノナばあさん』
トニー・デ・パオラ/文・絵
ローバート・サブダ
マッシュルーム・ハート/紙工作
さくらい えりこ/訳
大日本絵画



愛らしい絵がダイナミックに飛び出す!ノナばあさんが「人生を豊かにする6つの知恵」をやさしい言葉で分かりやすく伝授。

『イミズムズムズ』

射水市大島絵本館/作
森 みちこ/絵
射水市



射水の里の清らかな流れから生まれた水の王様ムズムズくんが、名産、名所、お祭りなど射水のステキなところを紹介。オノマトペも楽しいワクワク感あふれる絵本。

『おばあちゃんちのすきまおばけ』

よしみずともか/作
射水市大島絵本館



砺波平野の伝統家屋アズマダチが舞台。すきま風や電話の邪魔など「すきまおばけ」のいたずらをユーモラスに描く。おおしま国際手づくり絵本コンクール2010最優秀賞受賞作品。

『くものうえから』

かずおか きょうこ/作
射水市大島絵本館



生まれる前、赤ちゃんはいつも雲の上からお母さんを見て、お母さんをお母さん…。母子の優しい気持ちが満ちあふれる絵本。おおしま国際手づくり絵本コンクール2008最優秀賞受賞作品。

全国絵本ミュージアム会議によせて